工業用気化式加湿機

HSE501・1001

取扱説明書

このたびはシズオカの気化式加湿機をお買い上げいただきまして，
まことにありがとうございます。

⚠

- お使いになる前に，必ずこの取扱説明書をよく読んで，製品を正しくお使いください。
- 取扱説明書は，お使いになる方がいつでも見ることができるところに大切に保管してください。

もくじ

まえがき 1
1. 特に注意していただきたいこと 2
2. 各部のなまえ 3
3. 初めてお使いになる方へ 3
4. 使用方法 6
5. 定期点検・掃除方法 8
6. 故障・異常時の処置 9
7. 仕様 10
8. 安全ラベルの一覧 10
9. 保管（長期間使用しない場合） 11
10. アフターサービス 11
11. 定期交換部品 12
12. 別売部品 12

まえがき

◆ この取扱説明書には，この製品を安全に，正しくお使いいただくため，必ずお守りいただきたい注意事項が表示されています。その注意事項は⚠危険，⚠警告，⚠注意に区分されています。表示内容をよくご理解いただき本文をお読みください。

⚠ **危険** この表示を無視して，誤った「取扱い」をすると，人が死亡，重傷を負う危険，又は火災の危険が差し迫って生じることが想定される内容を表示しています。

⚠ **警告** この表示を無視して，誤った「取扱い」をすると，人が死亡，重傷を負う危険，又は火災の可能性が想定される内容を表示しています。

⚠ **注意** この表示を無視して，誤った「取扱い」をすると，人が傷害を負う可能性や物的損害のみの発生が想定される内容を表示しています。

※「⚠ 注意 」の欄に記載した事項でも，状況によっては重大な結果に結び付く可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので，必ず守ってください。

静岡製機株式会社

1 特に注意していただきたいこと

安全のため，必ずお守りください。

＊ 下記の項目は，この製品をお使いいただく上での重要な安全事項が書かれています。ご使用前に必ずお読みください。

⚠ 危険

1. アースは必ず取り付けてください。
- 感電防止のため、アースは必ず取り付けてご使用ください。また、漏電ブレーカを設置したコンセントを使用してください。
- アース線は、ガス管、水道管、避雷針用アース線、または電話のアース線に接続しないでください。
- アースが不完全な場合は、感電のおそれがあります。アース線は、アース接続ねじに確実につないでください。

2. 水のかかる場所での使用禁止
屋外、および水のかかる場所では使用しないでください。また、ぬれた手でスイッチを操作しないでください。感電するおそれがあります。

3. 異常時使用禁止
異常を感じたとき（異音、漏水、焦げ臭い等）は、すぐに運転を停止してください。 異常のまま運転し続けると、重大な故障、感電、火災の原因になります。

4. 電源コード・電源プラグ破損状態での使用禁止
異常を感じたとき（異音、漏水、焦げ臭い等）は、すぐに運転を停止してください。 異常のまま運転し続けると、重大な故障、感電、火災の原因になります。

⚠ 警告

1. 回転物への接触禁止
吹出口や吸込み口に指や棒などを絶対に入れないでください。回転部に触れて、けがをするおそれがあります。

2. 改造使用の禁止
改造して使用しないでください。故障や火災等の原因になり危険です。

3. 電気部品への水掛け禁止
電気部品に水をかけないでください。気化エレメントなどの掃除などのとき、電気部品に水がかからないようにご注意ください。電気部品の絶縁が劣化し、感電の原因になることがあります。

4. 火の粉などが飛散する場所での使用禁止
鉄工所など火の粉が飛び散るような場所では使用しないでください。火災につながることがあります。

5. 感電注意
電源プラグはぬれた手で抜き差ししないでください。日常の点検、お手入れの際は必ず電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。感電やけがの原因になります。

⚠ 注意

1. 工業用途以外での使用禁止
本製品は工業用として設計されています。人用加湿目的として使用しないでください。

2. 吸込み側の空間確保
本体の吸込み側は充分に空間（50cm 以上）をとってください。吸込み側を壁面その他の障害物に近づけすぎると風量不足となり、性能低下のおそれがあります。

3. 傾斜設置での使用禁止
本体は水平に保ってください。傾けると水が漏れるおそれがあります。

4. 運搬・移動時の注意
運搬、移動する場合は、フィルターの脱落や、タンクの跳び出しにより、けがや事故が発生するおそれがあります。しっかりと浮き上りをなくしてから運搬、移動させてください。

5. 自動給水時の配管接続をする場合
給水配管接続は確実に行ってください。接続に不備があると、漏電または、周囲をぬらす原因となります。設置場所は、万一に備え、なるべく漏水の被害を受けにくい場所を選んでください。

6. 水道水以外の使用禁止
40℃以上のお湯や化学薬品、芳香剤、アロマオイル、井戸水、工業用水など使用しないでください。タンクの破損や臭気発生の原因になります。

7. 残留水の放置禁止
毎日、運転終了時には必ず残留水を排出してください。タンクの水をそのまま放置すると、腐敗や微生物増殖などにより、臭気発生の原因になります。

8. 水が凍結する環境での使用禁止
水が凍結する環境では使用しないでください。ホースや部品が破損するおそれがあります。休止中、凍結のおそれがある場合は水抜きを行ってください。（使用周囲温度：5 ～ 35℃）

9. 周囲環境の注意
切削油・潤滑油などのオイルミスト・油煙などが発生する環境でお使いになると、機械が破損する原因となります。
この様な環境でお使いになる場合は、ミストコレクター等を使用するなど環境改善を行ってください。

10. 運転中移動禁止
運転中は本体を動かさないでください。循環水がタンクからこぼれ、床面を濡らすおそれがあります。

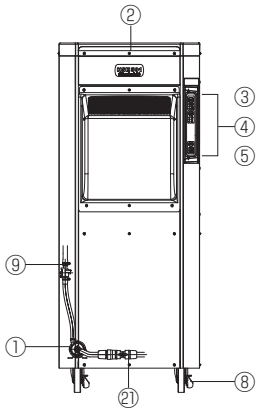
11. 周囲設置品の防錆注意
吹き出す風は湿気を帯びているため、吹出口の周囲には錆やすいものを置かないでください。

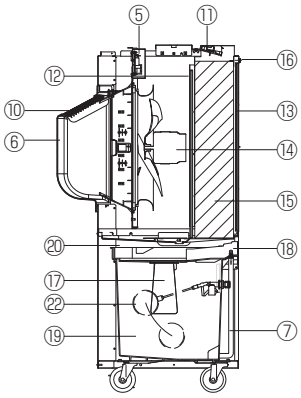
12. 酸性・アルカリ性洗剤の使用の禁止
酸性、アルカリ性洗剤は使用しないでください。洗剤は中性洗剤のみ使用してください。それ以外の洗浄剤または化学薬品を使用すると、機械の安全性に悪影響を与えることがあります。

13. 24 時間連続運転する場合
24 時間で連続で使用する場合は、週 1 回「送風モード」で 4 時間以上運転し、気化エレメントを充分に乾燥させてください。腐敗や微生物増殖などにより、臭気発生の原因になります。

2 各部のなまえ

① ポンプ
② 天板
③ ランプ
④ スイッチ
⑤ 基板
⑥ 風向アタッチメント
⑦ 水位ホース
⑧ キャスター
⑨ フロースイッチ
⑩ 吹出口
⑪ 散水部





⑫ フィルター(吹出側)
⑬ フィルター(吸込側)
⑭ 送風ファン
⑮ 気化エレメント
⑯ エレメント押え
⑰ 水フィルター
⑱ 給水栓
⑲ タンク
⑳ タンクフタ
㉑ コック付中間継手
㉒ ボールタップ

※⑫と⑬は同じ部品です。

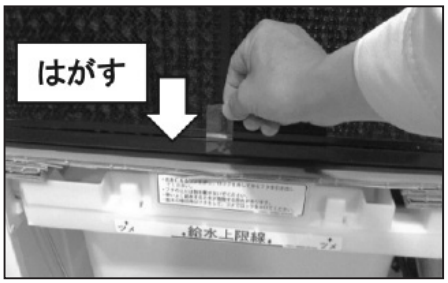
安全装置の説明	
過電流保護（ヒューズ）	電気系統に過電流が流れると電気回路を遮断し、自動的に停止します。 作動状態：全停止します。
水切れ検知（フロースイッチ）	タンクの水がなくなりフロースイッチが水切れを検知すると、ポンプを停止させ、気化エレメントの乾燥運転を行った後、送風ファンが停止します。 作動状態：水切れを検知すると、加湿ランプが点滅し、ポンプが停止します。 その後、風量設定により３０～５０分（強：３０分、中：４０分、弱：５０分）で送風ファンが停止します。
送風ファンモーター過負荷保護	モーターに過電流が流れると電気回路を遮断し、自動的に停止します。 作動状態：ファンが停止します。冷えると自動的に運転を再開します。

3 初めてお使いになる方へ

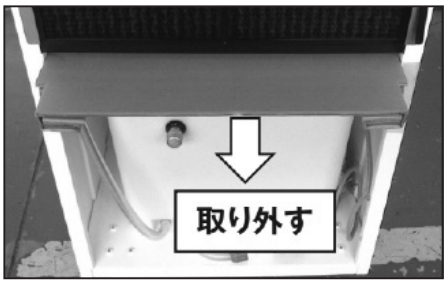
3－1．運転準備

★ **開梱**（輸送時の固定用梱包の取り外し）

1 梱包を開け、フィルターの固定用テープをはがしてください。



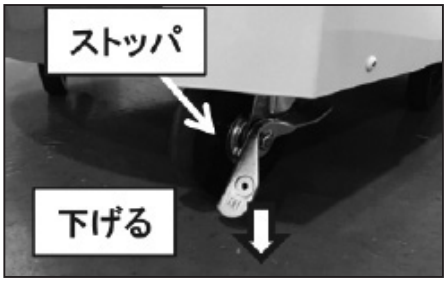
2 タンクの上面にある固定用ダンボールを取り外してください。



3 コック付き中間継手が“ON”になっていることを確認してください。

3－2．本体設置

設置後、本体が容易に動かないように固定してください。
本体には移動用のキャスターがついていますが、運転中はキャスターのストッパをかけてください。
（キャスターのストッパ『ON』を下げてロックをかけてください。）

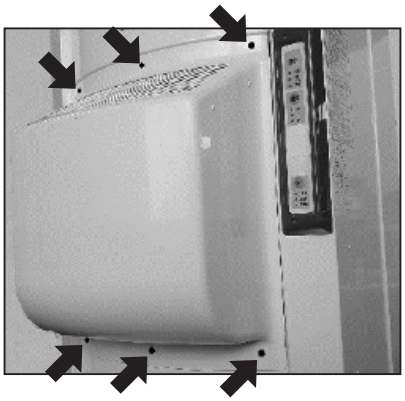


3－3．風向アタッチメントの組立

本製品は風向アタッチメントを外して梱包してあります。
開梱後は必ず風向アタッチメントを取り付けてください。

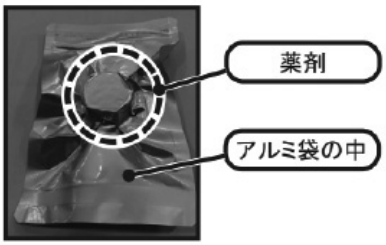
⚠ **警告** 風向アタッチメントを取り付けないまま使用しないでください。けがの原因になります。

付属のネジで６ヶ所を固定してください。

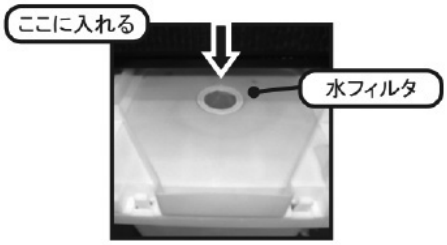


3－4．消臭パックの使用方法

1 アルミ袋から、消臭パックを取り出します。
※不織布の袋は、破らないでください。消臭効果が長続きしなくなります。



2 本体背面のタンクの上の隙間から水フィルターの中に、消臭パックを入れます。
※消臭パックは４ヶ同封されています。使用時には１ヶずつ使用してください。



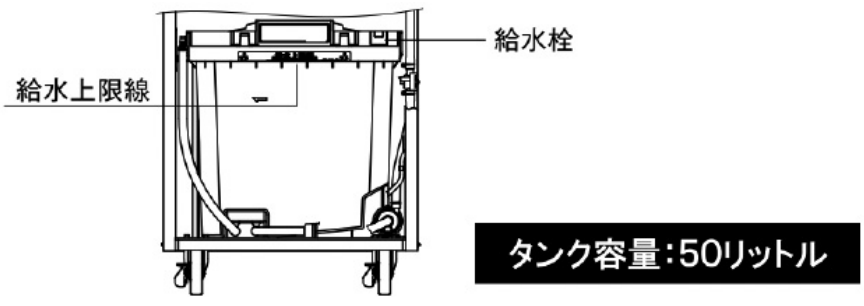
⚠ **注意**

- 絶対に口や目にいれないでください。
- 子供の手に届く場所に置かないでください。
- 本品は消臭専用の薬剤です。それ以外の用途に使用しないでください。
  また、本品以外の薬剤を本製品の消臭に使用しないでください。
- 消臭パック（１ヶ）は１ヶ月程度で無くなります。（別売部品でお求めになることができます。）

3－5．一回ずつタンクへ給水する方法

⚠ **注意**

- 給水前にコック付き中間継手が確実につながっていることを確認してください。
- コック付き中間継手のコックが「ON」になっていることを確認してください。
- 補給水は必ず水道水をお使いください。井戸水や工業用水を使用すると、気化エレメント内で藻や細菌が増殖しやすく、加湿効果が低くなったり、臭気発生の原因となるおそれがあります。
- 「給水上限線」以上に、水を入れないでください。
  本体の移動中にタンクから水があふれるおそれがあります。
- タンクに充分な水位がないままで始動するとポンプに水が供給されないため、加湿ランプが点滅しポンプが停止します。

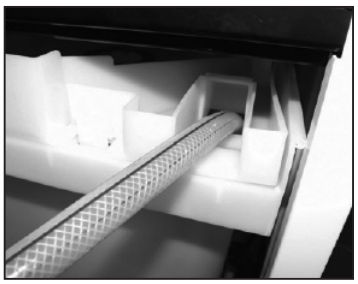


ノズル付きポリタンクでの給水

タンクの給水栓を外して穴に差し込み、給水します。

給水ホースで給水します

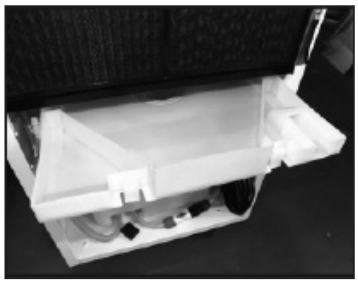
タンクの給水栓を外して穴に差し込み、給水します。



給水後は、必ず給水栓をもとのようにはめてください。

ポリタンク・バケツでの給水

1 タンクフタのツメ、２ヶ所を外して、タンクフタのみをおよそ 17 ｃｍくらい手前に引き出します。



2 ポリタンクなどの口をタンクフタに近づけ、少しずつ給水します。

給水後は、タンクフタを押し込み、必ず２ヶ所のツメを押し、ロックしてください。

⚠ 注意

- タンクフタを引き出した状態で、上に乗らないでください。
  また、20 ｋｇ以上の物を載せないでください。
  タンクフタが破損し、けがをするおそれがあります。
- タンクフタを強く引っ張らないでください。ツメが破損し、転倒するおそれがあります。
- タンクフタに給水する時は、ゆっくりと水を入れてください。勢いよく給水すると水が飛散したり、タンクフタから水があふれて床面を濡らすおそれがあります。
- キャスタをロックしてください。給水時に本体が動くおそれがあります。
- 給水以外はタンクを収納してツメをロックするようにしてください。
  収納しない場合、タンクフタにゴミが入り、故障するおそれがあります。

３－６．自動給水による方法（自動給水ボールタップを使用します。）

⚠ 注意

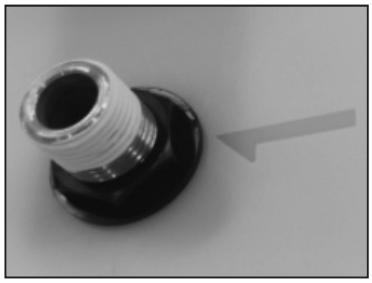
- 漏水事故防止のため、ユーザー様の責任で、配管の管理をしていただきますようお願いします。
  また、給水側に 80 ｋ Pa 程度の減圧弁、ストレーナー、止水弁の取り付けを推奨します。
  （予期せぬ水圧や、異物の混入による、弁の誤作動を防止することができます。）

- 自動給水方法でお使いになる場合は、ボールタップ以外に次のような市販の配管材をご用意ください。

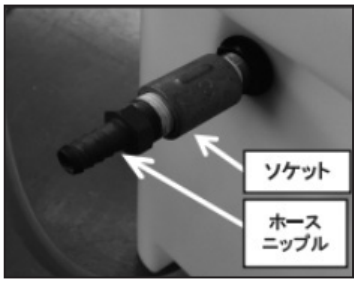
●ソケット（1/2B) ●ホースニップル（1/2B） ●ホースバンド ●ホース（メッシュ入り） ●シールテープ

配管例

1 シールテープをネジ部に巻き、ボールタップにソケット、ホースニップルを取付けます。



2 ホースニップルにホースを差し込みます。



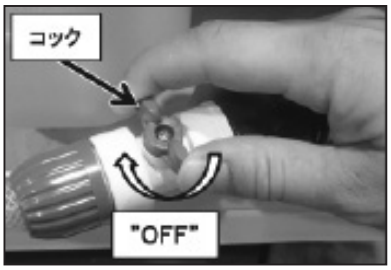
3 ホースバンドでホースを固定します。

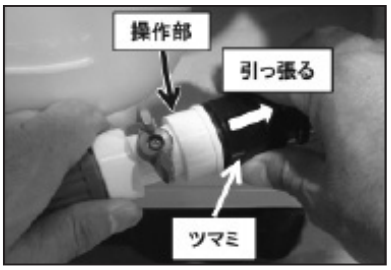
⚠ **注意**

- 配管材を取付けるときは、タンク内部の部品が回らないよう確実に固定してください。取り付け後、タンク内部のボールタップ自動給水口が真下を向いていることを確認してください。
- 初回使用時にはボールタップが正常に機能することを確認してください。
  ボールタップの動作に不具合があると、給水が正常に停止せずタンクから水があふれ床面を濡らすおそれがあります。

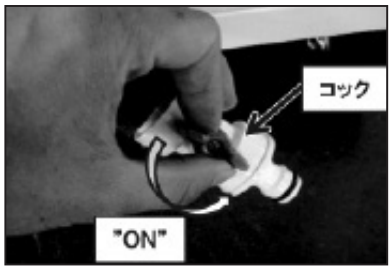
3－7. 排水方法

1 コック付き中間継手のコックを“OFF”にします。
ツマミを引きながら、操作部を引いて外します。
コックを“ON”にすると水がでます。





2 排水後の接続は、「カチッ」と音がするまで確実に挿入し、中間継手のコックを“ON”にしてください。



⚠ **注意** 外した継手を地面や本体に擦らないでください。
接合部にキズがついて水漏れのおそれがあります。

4 使用方法

初めてお使いになる場合は気化エレメントの臭いがすることがありますが、有害なものではなく数日で気にならなくなります。
また、タンクの水は、必ず毎日排水をし、週に一度はタンク内の清掃をお願いします。

■ 使用時の注意事項

★ 運転前チェック（電源を切った状態でチェックしてください。）

- 本体が水平で、キャスターがストッパーで固定されていますか？
- 電源コンセントとアースの接続は確実におこなわれていますか？
- 本体または給排水管から水漏れがありませんか？
- コック付き中間継手のコックは「ON」になっていますか？

★ 運転時の注意

- 給水せずに運転しないでください。ポンプの空運転を繰り返すとポンプの寿命に影響します。
- 初めてタンクに給水する時に、運転スイッチを押しても加湿ランプが点滅することがあります。この場合は、給水を追加し、水位を充分に上げて、再運転してください。
- 運転中は、本体を移動させないでください。水が漏れるおそれがあります。

★ 運転終了時の注意

- 吸い込み空気中には様々な塵埃が浮遊し、気化エレメントに付着しますが、これらはエレメントの表面流水により洗い流されますので、タンクの水は雑菌が徐々に増加します。
  タンクの水は、必ず毎日排水をし、週に一度はタンク内を掃除してください。
- 電源プラグを抜くときは、電源コードを持たずに必ず先端の電源プラグを持っておこなってください。感電やショートして発火することがあります。

4－1．運転手順

●“運転”スイッチを押すごとに【加湿】→【自動停止】→【送風】→停止となります。

1 “運転”スイッチを１回押すと加湿ランプが点灯し、ファンとポンプが作動します。

2 ポンプ作動とともに、本体上部の散水板からの散水で本体の後側にある気化エレメントに上部より通水します。
タンク内の水がなくなると加湿ランプが点滅します。
この場合は給水してください。再運転は、運転スイッチを押してください。

3 加湿運転中に”運転”スイッチを１回押すと、自動停止ランプが点灯してポンプが停止し、30 ～ 50 分（風量設定による）でファンが停止します。
加湿運転終了時には、必ず自動停止で終了してください。

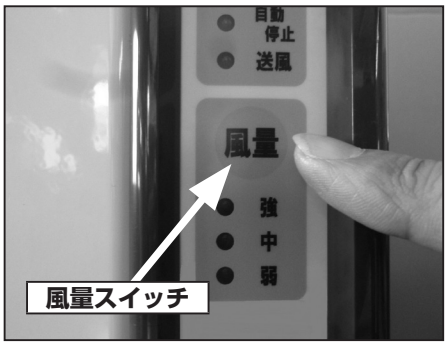
> ⚠ **注意** 自動停止で終了しないと，気化エレメントが乾燥しないため、雑菌の増殖により臭いが発生することがあります。

4 自動停止ランプの点灯中に、”運転”スイッチを押すと送風ランプが点灯し、送風運転を開始します。

5 送風運転中に”運転”スイッチを押すと、ファンが強制停止します。

4－2．風量変更の手順

1 “風量”スイッチを押すごとに”風量”ランプが**【強】→【中】→【弱】→【中】→【強】**と点灯し、風量が変わります。
お好みの風量でお使いください。



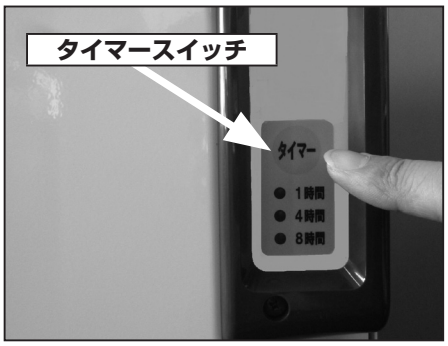
4－3．タイマー運転の手順（この操作は、切タイマーとして動作します）

●設定時間により、加湿運転または送風運転を停止します。

1 “タイマー”スイッチを押すとごとに“タイマー”ランプが**【1時間】→【4時間】→【8時間】→【消灯】→【1時間】**・・・と点灯します。

2 加湿運転でタイマー運転が終了したとき、設定したタイマー時間のランプが点灯から点滅に変わり、ポンプが停止します。
その後 30 ～ 50 分（風量設定による）でファンが停止します。

3 タイマー運転中は、設定した“タイマー”ランプが点灯し、保持します。
タイマー運転中にタイマー運転を解除するときは“タイマー”スイッチを１～３回押してください。タイマーランプが消灯し、解除します。



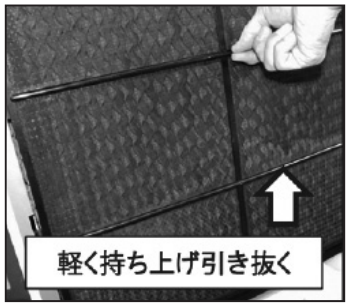
5 定期点検・掃除方法

定期的な保守、点検は長時間効率良く快適にご利用いただくために是非とも必要です。
フィルター、気化エレメント、タンク、エレメントケースの汚れ状況を見ながら適宜おこなってください。早めに洗浄すれば汚れは簡単に取り除くことができ、気化効率も維持されます。
少なくとも、シーズンの始めと終わりには必ず実施してください。

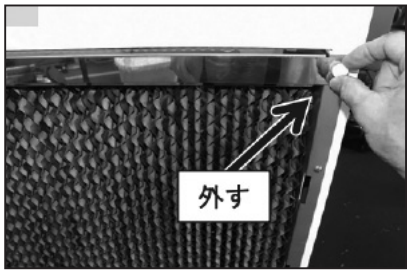
⚠ **警告**
- 点検、掃除作業の前に電源プラグを抜いてください。 感電のおそれがあります。
- 内部の電気部品には水をかけないでください。部品の故障の原因になります。

5－1．フィルター・気化エレメント・散水部の取り外し方

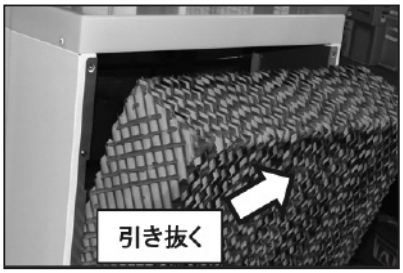
1 フィルター（吸込側）
フィルター（吸込側）の取っ手を持ち、少し上にあげてから手前に引き抜きます。



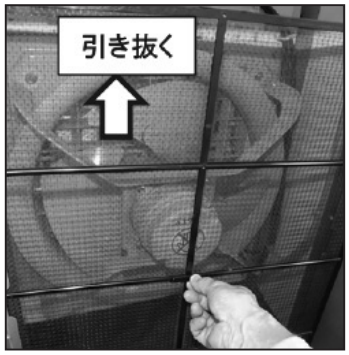
2 エレメント押え
2 本の樹脂ねじを外して、エレメント押えを取り外します。



3 気化エレメント
気化エレメントの上部を手前に倒して、斜めに上に取り外します。

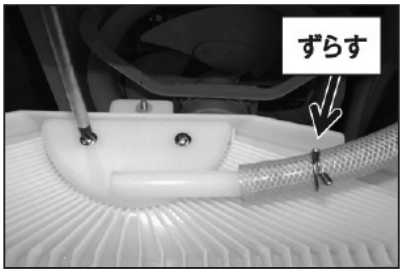


4 フィルター（吹出側）
フィルター（吹出側）の取っ手を持ち､左右にずらし､引き抜きます。（両側の板に抑えられています。板を外に押しながら引き出してください。）



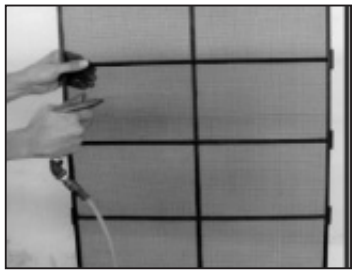
5 散水部
蝶ナットをゆるめ、散水部を上部左右２ヶ所の引っ掛けから引き出します。

6 散水板と散水蓋
ホースクリップをホース側にずらし、ホースを外します。散水蓋の取付ネジ２ヶを外し、散水板単体とします。



5－2．フィルター・気化エレメント・散水板の点検・掃除方法

1 フィルター（吸込側・吹出側）
汚れ・目詰まりがある場合は、エアーブローをしてください。（エアガンが無い場合は、ブラシを使用してください。）
汚れがひどい場合は交換をしてください。使用済みのフィルターは、不燃ゴミとして処分してください。



2 気化エレメント
汚れ・目詰まりや臭いの発生がある場合には、高圧洗浄機などで掃除をしてください。（圧力が強すぎると、破損する場合がありますので注意をしてください。）
汚れがひどい場合は交換をしてください。使用済みの気化エレメントは、燃えるゴミとして処分してください。

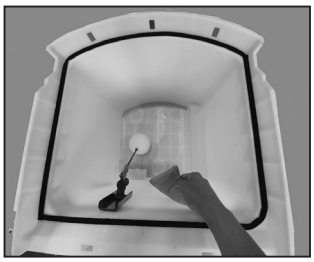
3 散水板
汚れ・目詰まりがある場合は、ブラシなどを用いて掃除をしてください。
汚れがひどい場合は交換してください。

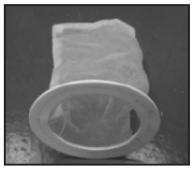
5－3．タンク及び水フィルターの掃除（毎週１回は、実施してください）……..

1 タンク内の残水を排水します。（3-7 参照）
タンクの後方を少し上方に浮かせて後ろに引き出します。

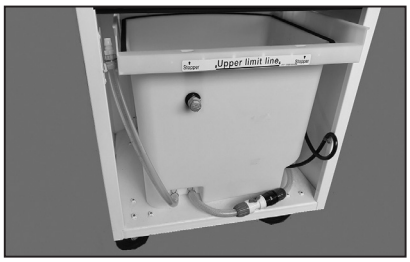
2 タンクフタの２ヶ所のツメを外してタンク部から、タンクフタを取り外します。

3 タンクやタンクフタ、水フィルター、の汚れがひどい場合は、中性洗剤などで洗浄します。




水フィルター

4 タンクフタ、水フィルターを組付けてタンクを元の位置に確実に取付けてください。この時、タンク下部のホースが折れないように注意してください。ホースが折れると、循環水量が減り、水切れ検知が作動したり、気化性能が低下するおそれがあります。水位ホースが確実に受けに固定されていることを確認してください。水位ホースが外れて奥に入り込み、気がつかずに給水すると、大量の漏水事故に繋がるおそれがあります。



6 故障・異常時の処置

下表の処置方法が「販売店に連絡する」の場合、または、処置方法に従って処置しても直らない場合は、お買い求めの販売店、または、最寄りの弊社営業所（巻末参照）へお知らせください。 その際に、製品の異常の状態と製品の型式名、製造番号をお知らせください。

現象	原因	処置方法
● 全く動かない	● 主電源が入っていない	● 主電源を入れる
● 風量が少ない	● 電源電圧が低い	● 電気業者に連絡する
	● フィルターや気化エレメントが目詰まりしている	● フィルターや気化エレメントを掃除する
	● 吸い込み側の空間が狭い	● 吸込み側の空間を広くする
● 加湿ランプが点滅する	● タンクの水量が少ない	● 給水する
	● 中間継手のコックが OFF になっている	● 中間継手のコックを ON にする
	● 散水板の目詰まり	● 散水板を掃除する
	● ホースの詰まり	● ホースを掃除する
	● ホースの折れ	● ホースの折れを直す
	● ポンプの動作不良	● 販売店に連絡する
	● フロースイッチの動作不良	● 販売店に連絡する
● 本体からの水漏れ	● 本体が水平に保たれていない	● 本体を水平にする
	● 部品の接続不良	● 漏水部の接続をやり直す
	● 部品の破損	● 販売店に連絡する
● 振動や騒音の発生	● ファンまたはファンまわりの不具合	● 販売店に連絡する
● 不快な臭いがする	● 循環水や循環経路に雑菌が繁殖している	● タンク及びエレメントケースの掃除をおこない、新しい水道水に入れ替える
	● 気化エレメントに黒カビなどの汚れが目立つ	● 気化エレメントを交換する
	● 環境や水質によって臭いが発生する場合があります	● 気化エレメントを交換する
		● 消臭パックを交換する

7 仕　様

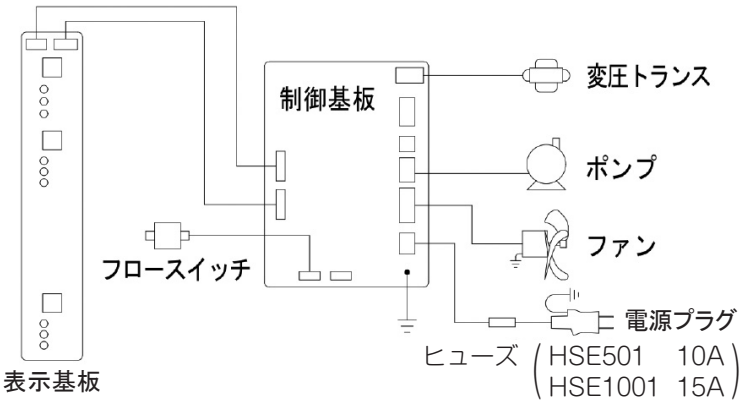
型　式			HSE501	HSE1001
電　源			単相 100V	
消費電力（50/60Hz）（W）			188/262	350/500
風量（50/60Hz）（㎥/min）			22.7/28.4（最大）	53.0/58.6（最大）
水蒸発量（50/60Hz）（L/h）※1	風量	強	4.2/5.0	9.1/10.0
		中	4.0/4.5	8.8/8.3
		弱	3.9/3.5	7.2/5.8
有効貯水量　（L）			50	
連続使用時間　（h）※2			11.0/9.5	5.0/4.5
給水方式			タンク貯水式（自動給水可能）	
安全装置			過負荷保護・水切れ検知・モーター過熱保護	
運転音（50/60Hz）[dB（A）]	風量	強	63/65	64/69
		中	59/52	62/62
		弱	54/49	58/52
外形寸法（高さ×幅×奥行　mm）			1367 × 550 × 718	1564 × 673 × 884
質　量　（kg）			49	72
使用周囲温度　（℃）			5 ～ 35	

※1：入口空気条件が 20℃・相対湿度 20%の時のもの。
※2：入口空気条件が 20℃・相対湿度 20%・強風量の時のもの。

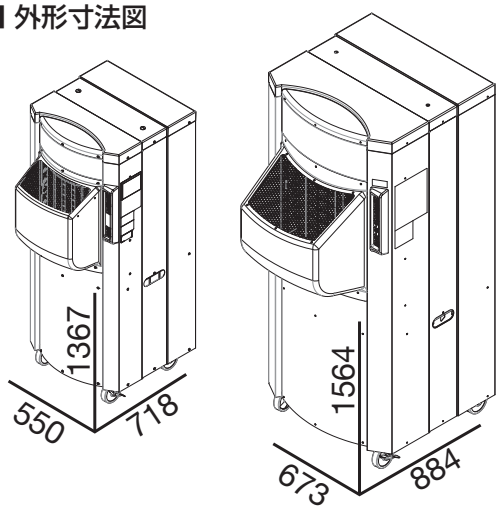
■ 清掃、消耗部品の交換の頻度

タンク内の残水の排水	毎日
部品の分解清掃	
タンク	1週間に1回
水フィルター	1週間に1回
気化エレメント	1ヶ月に2回
散水部	1ヶ月に1回
フィルター（吹出側）	1ヶ月に1回
フィルター（吸込側）	1ヶ月に1回
消耗部品の交換	
気化エレメント	2年に1回

■ 配線図

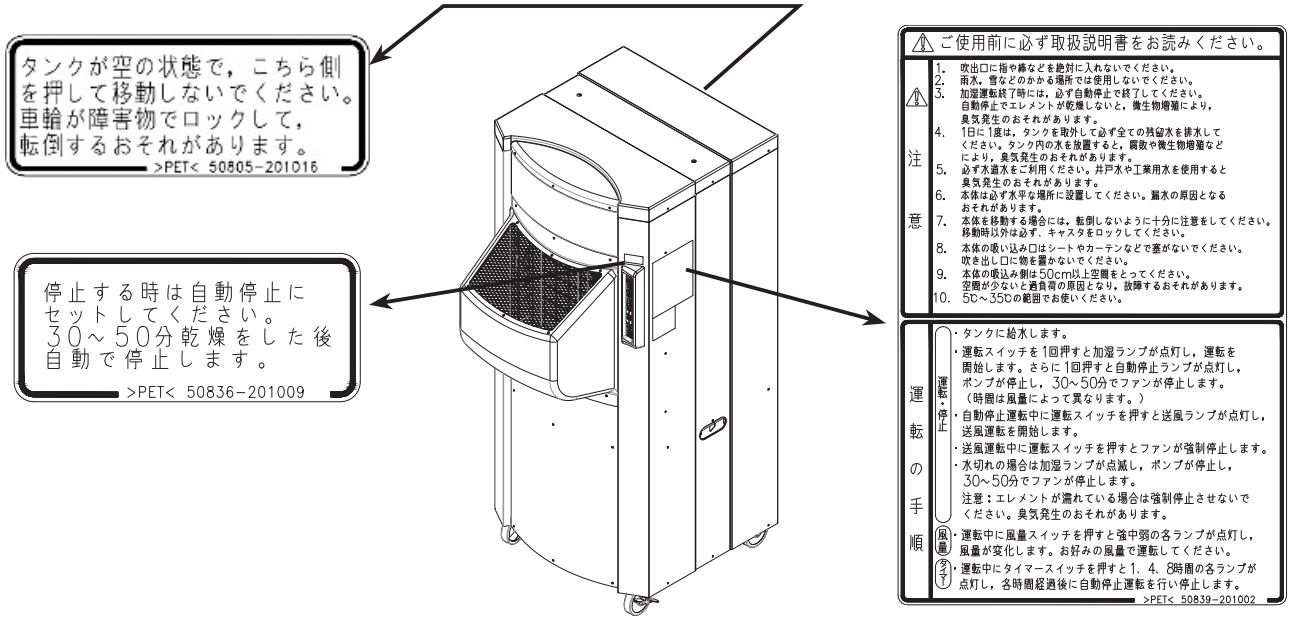


■ 外形寸法図



8 安全ラベルの一覧

安全ラベルは，製品を安全にお使いただくための重要なものです。はがしたり，汚したりしないでください。
ラベルの文字が消えたり，読みにくくなった場合は，販売店に注文して貼りかえてください。

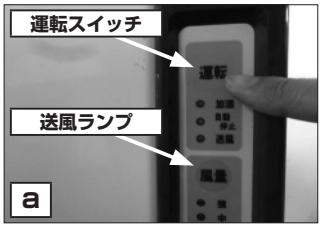


9 保　管（長期間使用しない場合）

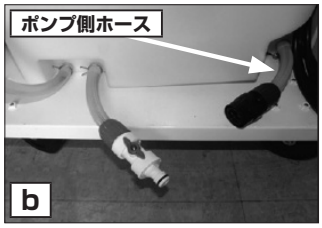
長期間使用しない場合は、次のような手入れをして保管してください。
微生物などの繁殖による臭気の発生や凍結による部品の故障のおそれがあります。

> ⚠ **注意**　電源プラグを抜くときは、電源コードを持たずに必ず先端の電源プラグを持っておこなってください。感電やショートして発火することがあります。

1. 送風運転により、気化エレメントを乾燥します。（右 a、7 ページ参照）
2. 気化エレメントが十分乾いてから、運転スイッチを押して運転を停止します。
3. 電源コードのプラグをコンセントから抜いてください。
4. コック付き中間継手を外してタンクを取り出し、タンク内の残水を完全に排水します。**（コック付き中間継手の外し方：右 bc、6 ページ参照）**
   このときポンプ側のホースの残水も排水してください。
5. タンクや水フィルターを中性洗剤などで洗浄します。（右d参照）
6. 中間継手内の水を充分に抜いてから、中間継手を接続します。冬期の凍結により破損する場合があります。
7. フィルター（吸込側）、気化エレメント・散水部も汚れの状況を見て、洗浄を実施します。（8、9 ページ参照）
8. 保管は屋内で、湿気の少ない場所にしてください。

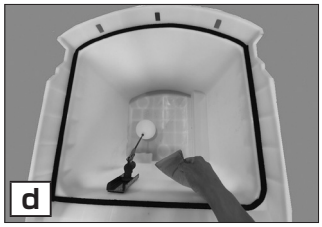


送風運転



排水

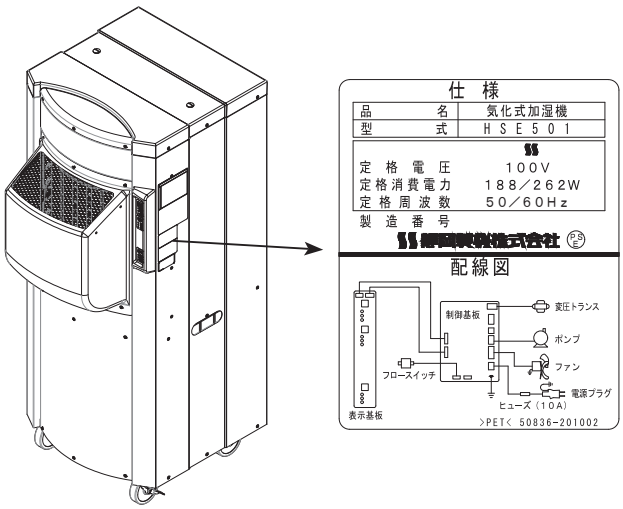
タンクの取り出し



タンクの洗浄

10 アフターサービス

- 修理サービスを依頼される前に「故障・異常時の処置」をご覧になり、もう一度ご確認ください。
  それでも異常のある場合は、お買い求めの販売店または、最寄りの弊社営業所（巻末）にご相談ください。
  なお、ご相談の際には、製品の異常の状態と製品の型式名、お使いの製品の製造番号をお知らせください。
  製造番号は、製品の側面に貼付してある「仕様・配線図ラベル」にしるしてあります。（下図参照）
- この製品には、1 年間の無償修理保証書が付いておりますので、大切に保管してください。
  なお、保証期間内に修理を依頼される場合は、保証書を添えてください。
- 下記の場合は保証の対象となりませんのでご注意ください。
  (1) キャスター・フィルター・気化エレメント、水フィルターなどの消耗品
  (2) 誤使用による故障
  例）電源 200V 使用による電気部品の焼損
  (3) 火災・浸水・落雷などの災害によるもの
  (4) 腐食性ガスの発生する場所で使用した場合の部品の腐食
  例）畜舎などアンモニアガス等の発生する場所
  (5) その他、取扱説明書に記載してある以外の使い方による故障
- 無償修理期間経過後の修理については、販売店にご相談ください。修理によって性能が維持できる場合は有償修理いたします。販売店からの注文により、補修用性能部品を販売店に供給します。この製品の補修用性能部品の保有期間は、製造打ち切り後 6 年です。
  (1) この期間は経済産業省の指導によるものです。
  (2) 性能部品とは、その製品を維持するために必要な部品です。



11 定期交換部品

■気化エレメント
HSE501　50836-201008
HSE1001　50839-201005

■水フィルター
共通部品　50805-201005

■散水部組立
HSE501　50824-101009
HSE1001　50826-101008

12 別売部品

■消臭パック
共通部品　2ヶ入り：50816-050901
4ヶ入り：50824-114001
（消臭パックは弊社の製品をご使用ください。）

■湿度調節器
共通部品　50836-005001

■収納カバー
HSE501　50836-210001
HSE1001　50839-210001

製品保証書　[保証期間　1年]

型式：HSE	製造番号：　—
お客様記入欄 お名前 ご連絡先 ご購入日	販売店様記入欄 販売店様名称　印 販売店様連絡先

弊社は、上記の製品単体について、下記の通り保証いたします。

（1）保証期間中に、正常な使用状態において生じた、製造上の責任による故障又は損傷につきましては、無償修理をいたします。
尚、無償修理において交換された旧部品は弊社の所有物となり、弊社が任意に処分できるものとしますのでご了承ください。

（2）次の場合は、保証期間中でも「有償修理」といたします。
（イ）取扱説明書に記載してある以外の使い方、誤った使用、過失及び整備、保管の不備により生じたと認められる故障等
（ロ）納入後の転倒、衝撃、及び改造や純正以外のオプション、部品の使用が原因で生じたと認められる故障等
（ハ）火災、地震、台風、落雷等の災害により生じたと認められる故障等
（ニ）使用損耗や経年変化により発生する現象
（ホ）ご購入の販売店や弊社指定のサービス店以外で修理されて故障した場合
（ヘ）その他上記に準ずるもの

（3）下記の場合は保証の対象となりませんのでご注意ください。
（イ）保証書の提示がない場合
（ロ）製品の性能等が、弊社規格内である場合
（ハ）弊社製品の使用又は使用できなかったことによる二次的損害（逸失利益の損害、事業の機会の損失、その他金銭的損害等）

（4）この保証書は、お買上げ時の領収書などの購入履歴のわかるものと併せて保管してください。

（5）お客様がご記入されました個人情報は、保証期間内のサービス活動及びその後の安全点検活動のために利用させていただく場合がありますのでご了承ください。

（6）保証書を紛失された場合の再発行はいたしかねますのでご注意ください。

（7）本機の保証は日本国内で使用される場合に限ります。
【　This warranty is valid only in Japan.　】

静岡製機株式会社

● 製品の修理・お取扱い・お手入れについてのご相談ならびにご依頼は，お買い上げの販売店もしくは最寄りの弊社営業所にお申し付けください。

静岡製機株式会社　URL：https://www.shizuoka-seiki.co.jp/

北海道営業所　〒007-0804　札幌市東区東苗穂4条3丁目4番12号
TEL（011）782－5294（代）
FAX（011）782－8258

東北営業所　〒989-6136　宮城県大崎市古川穂波3丁目1番14号
TEL（0229）23－7219（代）
FAX（0229）21－1464

関東営業所　〒175-0094　東京都板橋区成増1丁目17番2号
TEL（03）6904－3786（代）
FAX（03）6904－0302

中部営業所　〒437-8601　静岡県袋井市山名町4－1
TEL（0538）42－3222（代）
FAX（0538）42－3206

関西営業所　〒661-0032　兵庫県尼崎市武庫之荘東2丁目10番8号
TEL（06）6432－7880（代）
FAX（06）6432－7487

九州営業所駐在　〒835-0004　福岡県みやま市瀬高町山門1841－1
TEL（0944）88－9136
FAX（06）6432－7487

営業本部産機企画課　〒437-1121　静岡県袋井市諸井1300
TEL（0538）23－2825
FAX（0538）23－2890

VEGETABLE OIL INK　インキはベジタブルインキを使用しています。弊社では，地球にやさしい印刷物を常に考えています。

50836-201003 C
2210001 ©